

## 令和3年度 学校運営

副校長 細井 宏一

昨年度も、私は学校通信第2号に巻頭言を書いています。読み返すとそのタイトルは「小学校におけるオンライン学習の可能性」でした。そこには、「児童が登校できない状況下、教育活動をどのように行うかが学校に問われています。…注目されているのがネットを活用したオンライン授業です。……(略)」として、オンライン学習について、ミネルバ大学の紹介をしたり、オンライン学習のよさや難しさについて述べたりしていました。

ちょうど1年前は、緊急事態宣言のため、4・5月は臨時休業で、学校に来ることがまったくなかったことを思い出します。大量の書類・資料(教科書や通信、学習プリント等)を、各ご家庭・児童にどのように届けるか、取りに来ていただくか郵送か、検討していたことも思い出しました。「ホームページに学習課題をあげること」「電話をかけて児童や保護者とコミュニケーションをとること」が精一杯で、「オンライン授業」というのが、どのようになるのか想像できなかったように思います。

5月にデバイス調査を行って「オンライン朝の会」からスタートしました。6月に始業式、そして分散登校がはじまり、2教室連携など工夫して授業をしました。登校日でない日には、「オンライン朝の会」を継続しつつ、7月にはオンライン授業にも少しずつ取り組みました。このことで、昨年3学期の緊急事態宣言の際には、時差登校と水曜日のオンライン授業で乗り切ることができました。このような学校教育の変化は今後もあることでしょう。

今後も感染状況をみて、一つ一つ対応を考えていくことになりそうです。幾つかは、やむを得ず縮小や延期・中止とするものもありますが、感染予防対策をしっかりしながら、できるだけ工夫して児童にとって学びと充実感のある学校となるように、本年度も学校運営をして参ります。

そこで、本年度の学校経営ですが、重点として、大きく4点を掲げています。

1. 新型コロナウイルスの感染予防対策をしながらの学校運営
2. 「探究科学習実践の積み上げと検証」→文部科学省研究開発学校のまとめとして発表・提案。
3. IB(国際バカロレア教育)のPYP 認定校への申請
4. 「きれいな言葉」「よさに気づく心」

学校運営では、昨年作成した「附属大泉小の新しい生活様式」を継続します。学校行事では、様々な感染予防策をしながら、可能な範囲で実施して、児童の学校生活にアクセントをつくり、充実感を大事にしていきます。

学習では、探究科で、教科の枠を超えた探究的な学びを充実させていきます。これは研究開発学校としてIB認定にも繋がります。生活指導面では、合い言葉として「きれいな言葉」「よさに気づく心」としました。これは児童に自己肯定感と相互肯定感を育むことをねらっています。自分自身のよさに気づくこと、そして、友達のよさに目を向けること、認め合うことを大切にします。人と考え方に違いがあっても、ただ非難するのではなく、よいところに気づき、違いを受けとめ認め合って、よりよい人間関係を創っていく、そういったことを目指します。子ども同士、そして関わる大人の方も、「きれいな言葉」を使うように努めていきます。具体的な、学校行事については、次ページをご覧ください。本年度もよろしくお願いいたします。